

# 平成23年3月期決算の概要

1. 要 約 .....	1ページ
2. 震災の影響 .....	2
3. 営 業 .....	5
4. 損 益 .....	9
5. 財務内容 .....	11
6. やや長い目でみた経営動向 .....	13
(付)営業店一覧 .....	15

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て

## 1. 要約

- 欧米金融危機からの回復過程を辿っていた福島県経済は、今般の巨大複合災害で大きなショックを受けた。2ヶ月強を経た現在も、生産は回復しつつあるが、企業や個人のマインドはなお平常に復していない。
- 当行の23年3月期決算は、経常利益は増益ながら、最終損益は震災の影響(単体64億円、連結66億円)から単体51億円、連結49億円の赤字となった。
  - － 震災前の段階では単体10億円、連結12億円の最終黒字を見込んでいた。
- 22年度の営業をみると、預金は増加したが、貸出は減少し、国債等有価証券が増加した。貸出の内容をみると、住宅ローンは増加したが、事業性貸出は企業の資金需要低迷を背景に引続き減少した。
- 3月末の自己資本比率は、単体8.35%、連結8.38%に低下した。ただ、貸出余力は資本面、資金面とも十分であり、当行は復旧・復興資金への応需など地元経済の再生に全力で取り組んでいく方針である。

- 福島県経済の回復には相当の時間を要すると思われる。とくに原発事故については、目下進行中であり、風評被害等を含め、その影響を見極めることは困難である。このため、24年3月期の業績予想は現時点では未定である。
- 23年3月期の配当については、当初は年1円50銭を予定していたが、見送らざるを得ないと考えている。なお、24年3月期の配当は未定である。

### 23年3月期決算

(単位:百万円)

		23年3月期	22年3月期	前年比
単 体	経常収益	13,745	15,823	▲ 2,078
	経常利益	1,149	85	1,064
	純利益	▲ 5,136	300	▲ 5,436
連 結	経常収益	16,101	18,320	▲ 2,219
	経常利益	1,543	241	1,302
	純利益	▲ 4,963	388	▲ 5,351

## 2. 震災の影響

### (1) 当行への直接被害

① 人的被害ーなし

② 物的被害

(単位:百万円)

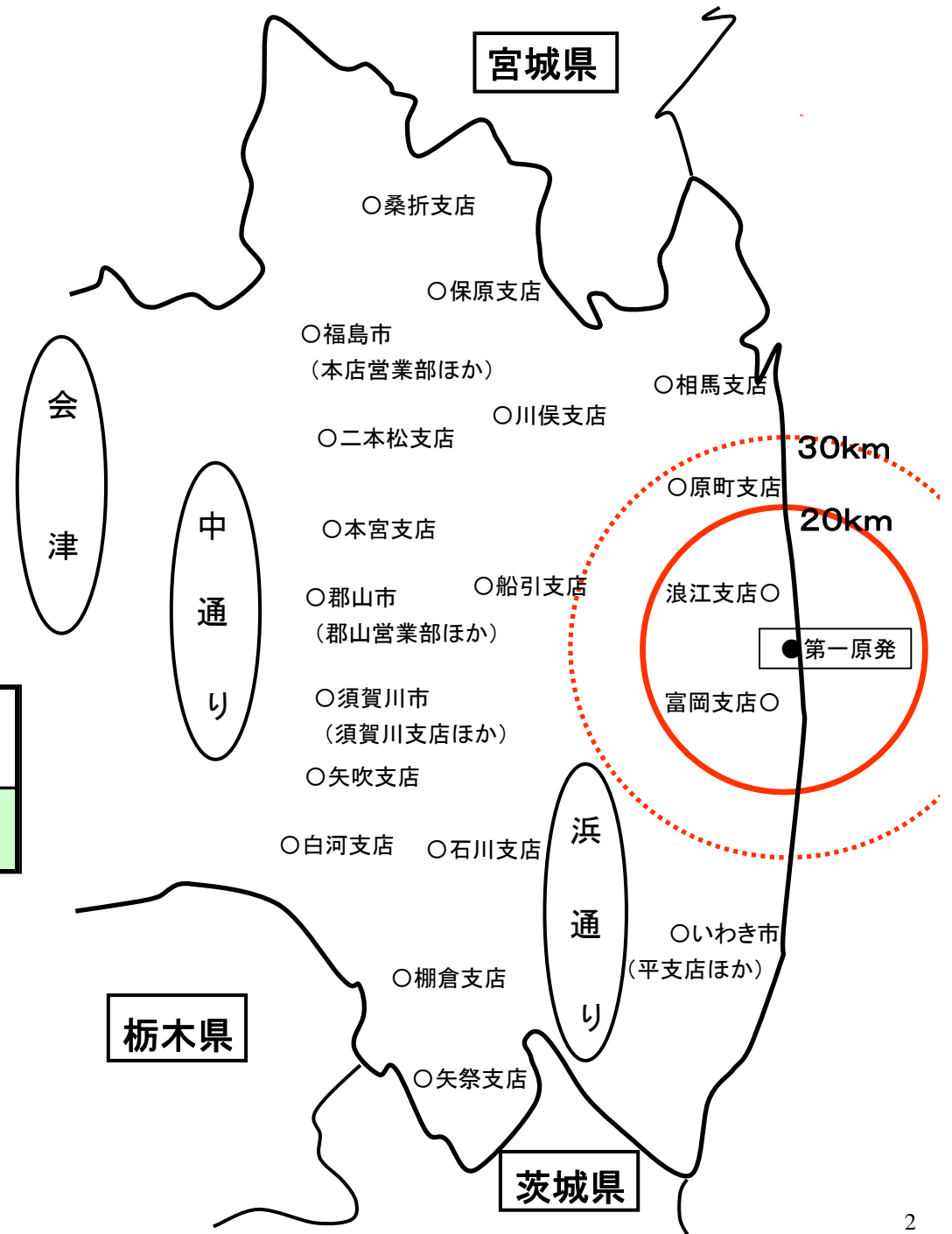
営業店(42店、98ヶ所)	45
本店(81ヶ所)	39
不動産の減損処理	342
<b>合計</b>	<b>426</b>

③ 営業被害

	ピーク時 (3月15日～18日)	現在 (5月20日現在)
営業休止店	13店(注1)	2店(注2)

(注1) 相馬・原町・浪江・富岡・四倉・平・平東・内郷・湯本・小名浜・植田・川俣・船引

(注2) 原発警戒区域内の浪江支店と富岡支店



## (2) 当行取引先に対する震災の影響

－直接の被害のほか、間接的な影響も含む。

調査対象：与信残高1億円以上の当行取引先企業(回答率100%)。シンジケートローン等本部貸出先を除く。

調査時点：4月中旬～5月上旬

(単位：先、%)

	調査対象		震災の影響度					
			大		中		小または無	
	先数	構成比	先数	構成比	先数	構成比	先数	構成比
浜通り	93	100.0	26	27.9	18	19.3	49	52.6
相双(注)	37	100.0	17	45.9	4	10.8	16	43.2
いわき	56	100.0	9	16.0	14	25.0	33	58.9
中通り	266	100.0	49	18.4	56	21.0	161	60.5
会津	56	100.0	6	10.7	6	10.7	44	78.5
県外	57	100.0	9	15.7	10	17.5	38	66.6
調査対象先	472	100.0	90	19.0	90	19.0	292	61.8

(注)相馬(津波被害大)、原町(緊急時避難準備区域)、浪江(警戒区域)、富岡(警戒区域)の取引先。

(参考) 当行貸出の地域別内訳

当行貸出の地域別内訳(23年3月末)

(単位:億円・%)

	店舗数		事業性貸出				住宅ローン			
			先数		残高		先数		残高	
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
浜通り	11	20.0	1,163	20.8	381	13.4	2,002	22.4	262	19.5
相双(注)	4	7.2	466	8.3	159	6.2	457	5.1	49	3.6
いわき	7	12.7	697	12.4	222	7.5	1,545	17.2	213	15.8
中通り	36	65.4	3,281	58.7	1,486	50.5	5,796	64.8	806	60.1
会津	4	7.2	669	11.9	249	8.5	180	2.0	91	6.7
合計(県外店等を含む)	55	100.0	5,586	100.0	2,932	100.0	8,937	100.0	1,340	100.0

(注)相馬、原町、浪江、富岡の4支店。

※ 私募債を含む。

### 3. 営業

#### (1) 預金

○預金は22年度中41億円増加し、23年3月末の残高は5,740億円、前年比0.7%増となった。

○預金者別にみると、一般法人、公金預金が増加した一方、個人預金は減少。

○期間別にみると、流動性預金が増加した一方、定期性預金は減少。

#### (2) 窓販

○22年度の窓販は投信を中心に128億円とかなりの増加(前年100億円)。

○3月末の預り資産残高は766億円と前年を3.7%上回った。

○震災後、個人預金の増加が目立つ一方、窓販はやや低調。

22年度の預金動向

(単位:億円)

		増 減		23/3月末残高	
			前 年		前年比%
預金者別	個人	▲8	▲39	4,573	▲0.1
	一般法人	13	13	905	1.4
	地公体等	36	▲3	262	16.1
期間別	流動性	59	63	2,028	3.0
	定期性	▲17	▲93	3,712	▲0.4
合 計		41	▲30	5,740	0.7

(注)NCDを含む。

22年度の窓販動向

(単位:億円)

		窓 販 額		23/3月末預り資産残高	
			前 年		前年比%
投	信	87	69	411	5.7
保	険	33	22	292	7.9
公	共 債	7	8	62	▲20.1
合 計		128	100	766	3.7

### (3) 貸出

- 貸出は22年度中62億円減少し、3月末の残高は4,396億円、前年比1.4%減となった。
- 3月末の貸出平均金利(残高ベース)は2.177%と銀行間の競争激化もあって前年比0.163%ポイント低下した。
- 貸出内容をみると、住宅ローンはかなり増加したが、事業性貸出は引続き減少した。事業性貸出の減少は、企業の資金需要の低迷に加え、期末の営業が震災後事実上停止したことも影響。
- 22年度の預貸率は末残76.5%(前年78.2%)、平残76.1%(同77.0%)となった。
- 震災後、返済猶予の申し出が急増している。

(単位:先)

	相談受付先	
		うち返済猶予
個人向け貸出	731	571
事業性貸出	449	354

(注1)個人は5月10日まで、事業性は4月末までの累計。

### 22年度の貸出動向

(単位:億円)

	増減		23/3月末残高	
		前年		前年比%
消費性	54	37	1,474	3.9
住宅ローン	66	46	1,340	5.2
事業性	▲85	▲63	2,454	▲3.4
うち保証協会	▲19	2	490	▲3.8
地公体	8	55	356	2.5
その他とも合計	▲62	▲41	4,396	▲1.4

### 貸出の動向

(単位:億円)

	増減			残高前年比%		
		うち住宅ローン	事業性		うち住宅ローン	事業性
18年度	▲37	44	▲147	▲0.8	4.2	▲4.7
19年度	▲230	43	▲309	▲4.9	3.9	▲10.4
20年度	73	87	▲47	1.7	7.6	▲2.3
21年度	▲41	46	▲63	▲0.9	3.8	▲2.4
22年度	▲62	66	▲85	▲1.4	5.2	▲3.3

## (4) 有価証券

○有価証券は債券を中心に22年度中212億円増加し、3月末の残高は1,227億円、前年比20.8%増。

○債券のデュレーション(残存期間)は4.7年とやや長期化(前年2.0年)。

○株式のうち持合上場株は銀行株を中心に前年比3銘柄、10億円の減少。

○3月末の「その他有価証券」の含み損は19億円の増加(前年7億円)。

○22年度の預証率は末残21.3%(前年17.8%)、平残21.5%(同19.2%)に上昇。

### 「その他有価証券」の含み損益

(単位:百万円)

	合計	債券	株式	投信等
20/3月末	▲ 4,621	▲ 1,371	▲ 2,083	▲ 1,166
21/3月末	▲ 3,532	▲ 114	▲ 1,438	▲ 1,979
22/3月末	▲ 718	381	▲ 234	▲ 865
23/3月末	▲ 1,955	▲ 299	▲ 593	▲ 1,061

## 22年度の有価証券動向

(単位:億円)

	増 減		23/3月末残高	
		前年		前年比%
債券	225	49	1,116	25.3
株式	▲ 10	0	54	▲ 16.6
投信等	▲ 3	2	56	▲ 5.2
合計	212	51	1,227	20.8

## 保有債券の内訳

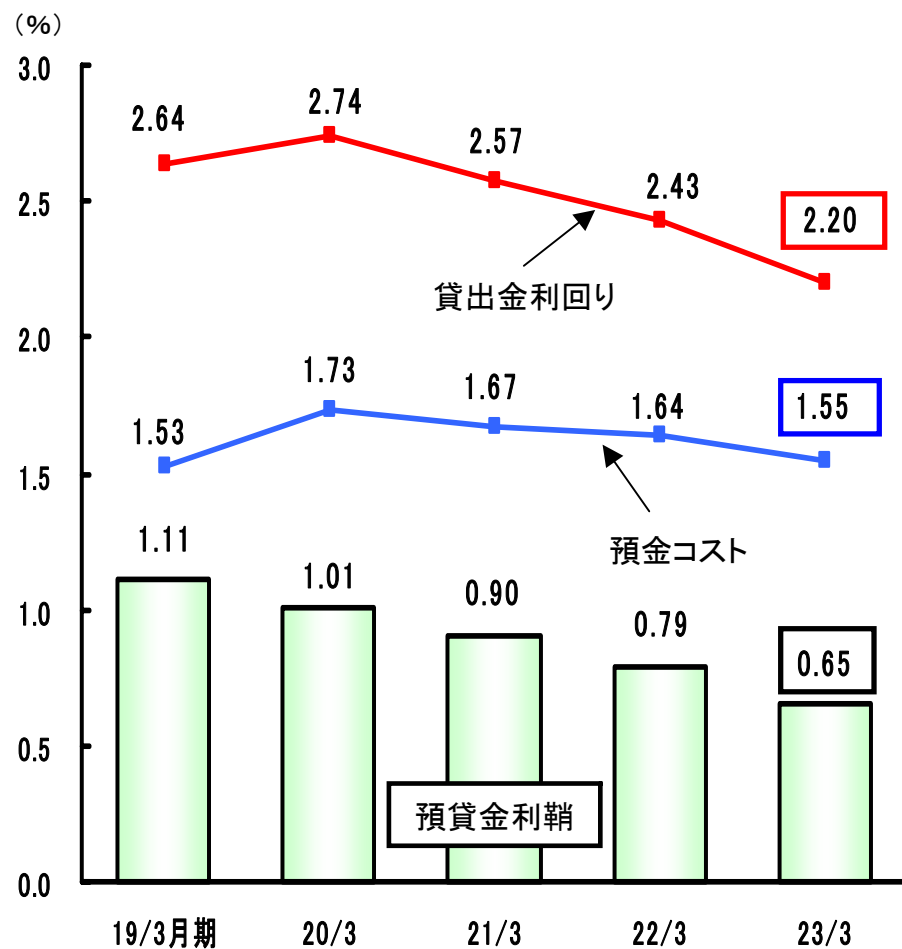
(単位:億円)

		22年度中増減		23/3月末残高	
			前年		前年比%
発行者別	国内債	240	35	954	33.6
	うち 国債	236	32	744	46.4
	事業債	18	78	120	1.7
	外国債	▲ 14	13	162	▲ 8.1
残存期間別	1年未満	▲ 2	▲ 58	153	▲ 1.9
	1年以上5年未満	▲ 23	134	424	▲ 5.5
	5年以上10年未満	279	70	454	61.5
	10年以上	▲ 27	▲ 97	84	▲ 31.8
合計		225	49	1,116	20.2



## (5) 利鞘

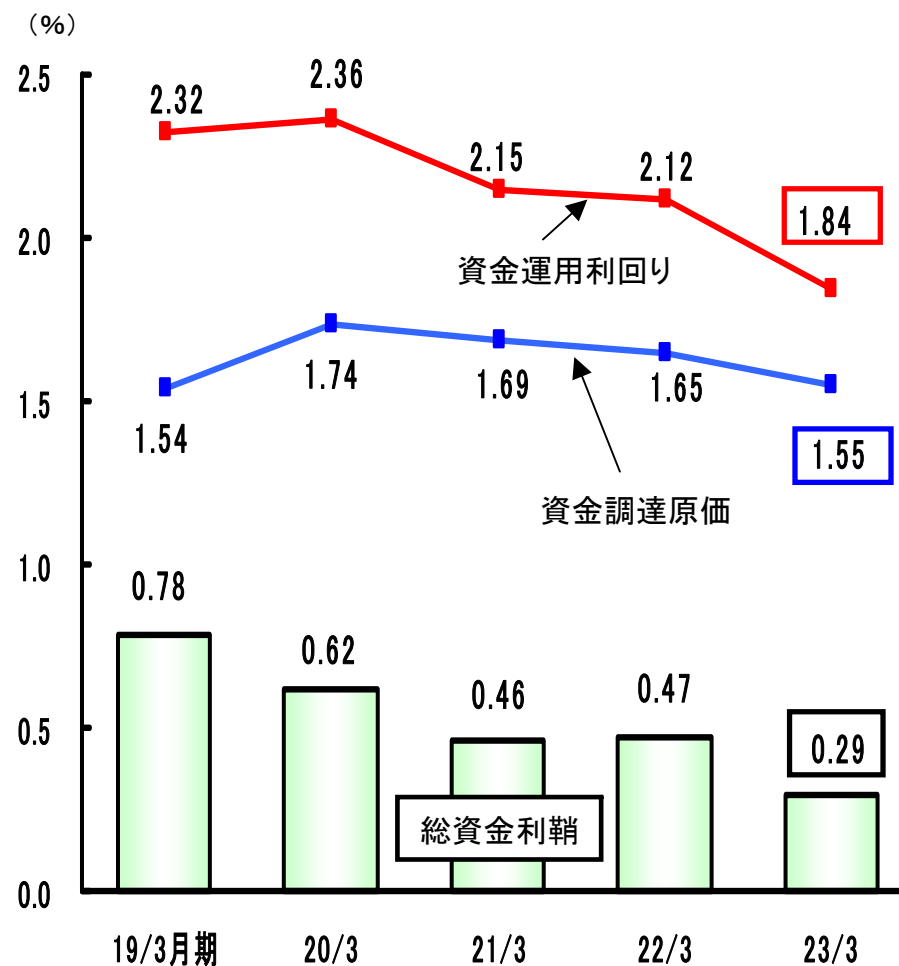
預貸金利鞘は貸出金利回りの低下から縮小。



(参考) 預金利回り

期	19/3月期	20/3	21/3	22/3	23/3
預金利回り	0.15	0.33	0.37	0.27	0.19

総資金利鞘は運用利回りの低下から大幅縮小。



(参考) 有価証券利回り

期	19/3月期	20/3	21/3	22/3	23/3
有価証券利回り	1.32	1.39	1.17	1.45	0.83

## 4. 損益

### (1) 業務純益

- 資金利益は93億円と前年比10億円の減少。
  - －主力の貸出金利息は貸出金利の低下、貸出の減少から8億円の減少。
  - －有価証券利息は利回りの大幅低下から5億円の減少。
  - －預金利息は預金金利の低下から4億円の減少。
- 窓販手数料は販売の増加、預り資産残高の増加から前年比1億円の増加。
- 債券5勘定は、売却益が減少の一方、償却の減少もあり、ほぼ前年並み。
- 営業経費は物件費、税金の減少から前年比1億円の減少。
- 相対型営業の成果を示すコア業務純益は27億円と資金利益の減少から前年比11億円の減少。

(単位:百万円)

	23/3月期	22/3月期	前年比
資金利益	9,329	10,348	▲ 1,019
貸出金利息	9,542	10,429	▲ 887
有価証券利息配当金	1,029	1,574	▲ 545
預金利息	1,116	1,549	▲ 433
役務取引等利益	934	807	127
窓販手数料	567	445	122
債券5勘定(注1)	516	583	▲ 67
売却益	543	923	▲ 380
債券償却	13	297	▲ 284
営業経費	7,619	7,736	▲ 117
人件費	3,492	3,438	54
物件費	3,703	3,754	▲ 51
税金	423	542	▲ 119
コア業務純益(注2)	2,743	3,896	▲ 1,153

(注1)債券5勘定＝国債等債券売却益、償還益、売却損、償還損、償却。

(注2)コア業務純益＝債券5勘定と一般貸倒引当金を除く業務純益。

## (2) 経常利益、純利益

- 経常利益は1,149百万円と前年比1,064百万円の増益となった。コア業務純益は減少したものの、不良債権処理費用が高水準の前年を下回ったうえ、株式の償却が大幅に減少したことによる。
- 最終損益は貸倒引当金など多額の震災関連費用を主因に5,136百万円の赤字となった(前年300百万円の黒字)。なお、震災関連の引当は、金融庁の特例措置に沿った個別判明分12億円のほか、今後の事態に備えた予防的引当を含め、49億円(連結では52億円)を計上。

### 震災関連費用

(単位:億円)

貸倒引当金の積み増し	49
当行建物等の物的被害	4
繰延税金資産の取崩し	11
計	64

- 連結でも、経常利益は1,543百万円と前年比1,302百万円の増益ながら、最終損益は4,963百万円の赤字(前年388百万円の黒字)。

(単位:百万円)

	23/3月期	22/3月期	前年比
コア業務純益	2,743	3,896	▲ 1,153
不良債権処理費用	2,108	2,892	▲ 784
一般貸倒引当金繰入(△戻入)	438	△646	1,084
個別貸倒引当金繰入(△戻入)	29	1,953	▲ 1,924
貸出金償却・売却損	1,641	1,584	57
株式3勘定※	▲ 46	▲ 1,632	1,586
株式償却	78	1,645	▲ 1,567
経常利益	1,149	85	1,064
特別損益	▲ 5,249	237	▲ 5,486
純利益	▲ 5,136	300	▲ 5,436

※株式3勘定＝株式等売却益、売却損、償却

(参考)連結ベース

経常利益	1,543	241	1,302
純利益	▲ 4,963	388	▲ 5,351

## 5. 財務内容

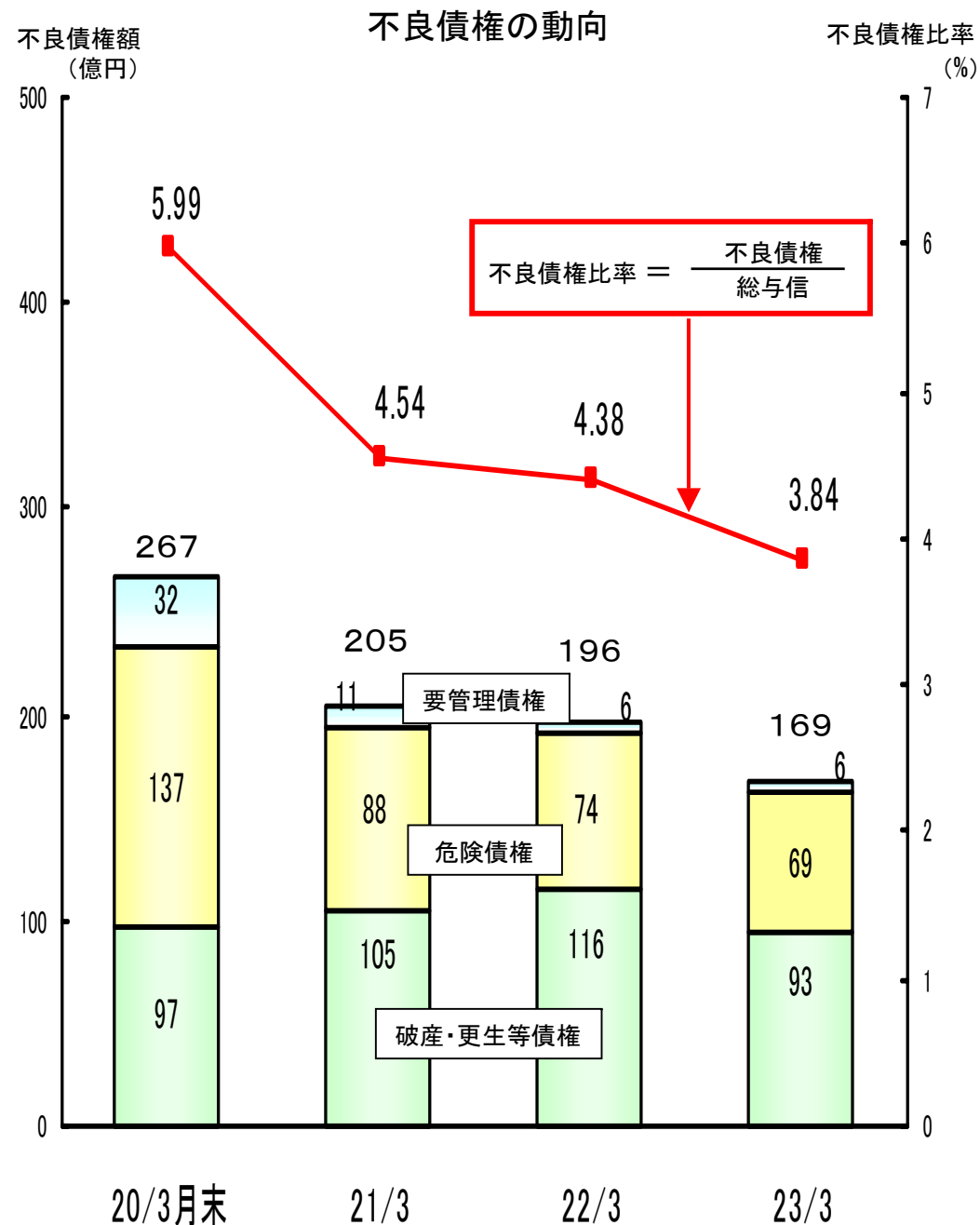
### (1) 不良債権(金融再生法開示基準)

- 23年3月末の不良債権は169億円と前年比27億円の減少。
- 3月末の不良債権比率は3.84%に低下(前年4.38%)。

不良債権の増減要因

(単位:億円)

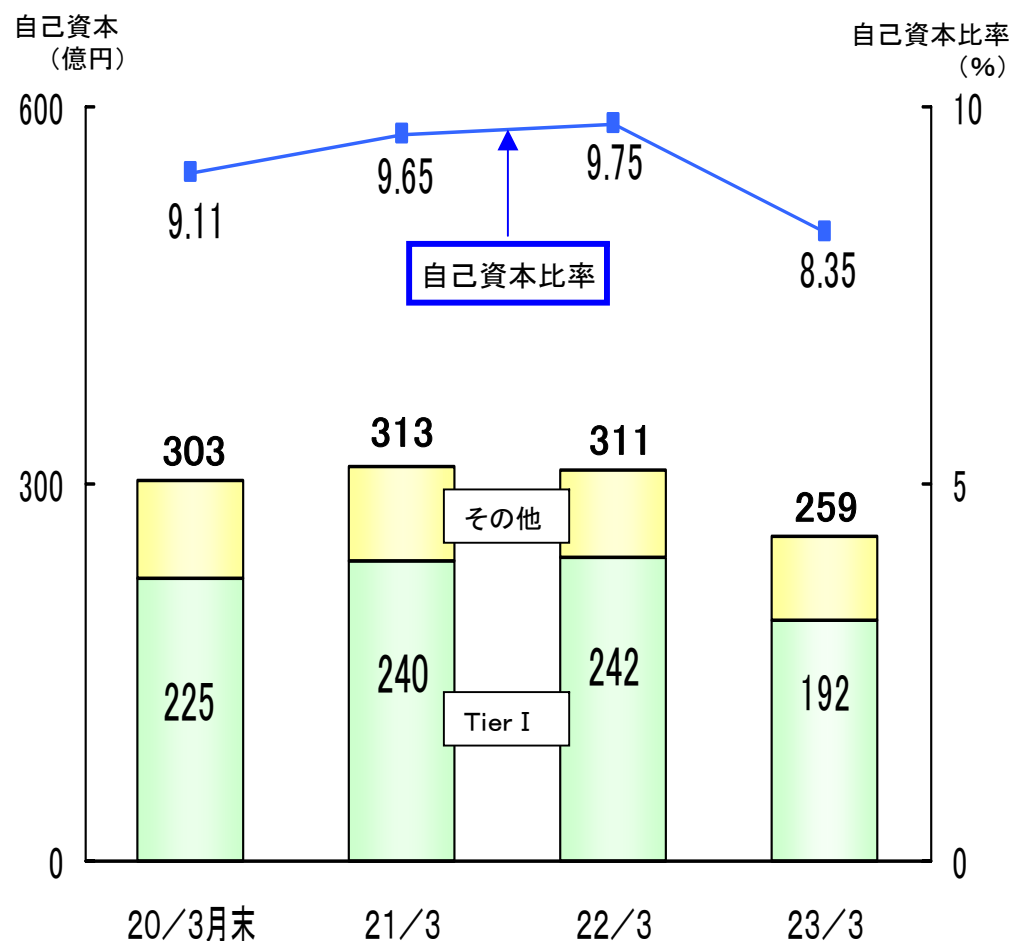
	21/3月期	22/3月期	23/3月期
正常債権への 上方シフト	▲ 39	▲ 14	▲ 3
正常債権からの 下方シフト	65	65	38
償 却	▲ 50	▲ 20	▲ 36
売 却	0	0	▲ 1
返済・回収	▲ 38	▲ 39	▲ 25
合 計	▲ 62	▲ 9	▲ 27



(単位: 億円、%)

## (2) 自己資本(BIS国内基準)

○ 23年3月末の自己資本比率は大幅赤字に伴い8.35% (前年9.75%)に低下。



	23/3月末	22/3月末	前年比
自己資本 A	259	311	▲ 52
Tier I (中核的資本)	192	242	▲ 50
うち繰延税金資産	47	58	▲ 11
Tier II (補完的資本)	68	69	▲ 1
うち劣後債	37	37	-
控除項目	▲ 1	▲ 1	-
リスクアセット B	3,109	3,189	▲ 80
信用リスクアセット	2,902	2,965	▲ 63
うち貸出	2,453	2,480	▲ 27
オペレーショナルリスクアセット	207	223	▲ 16
自己資本比率 A/B	8.35	9.75	▲ 1.40
連結自己資本比率	8.38	9.72	▲ 1.34

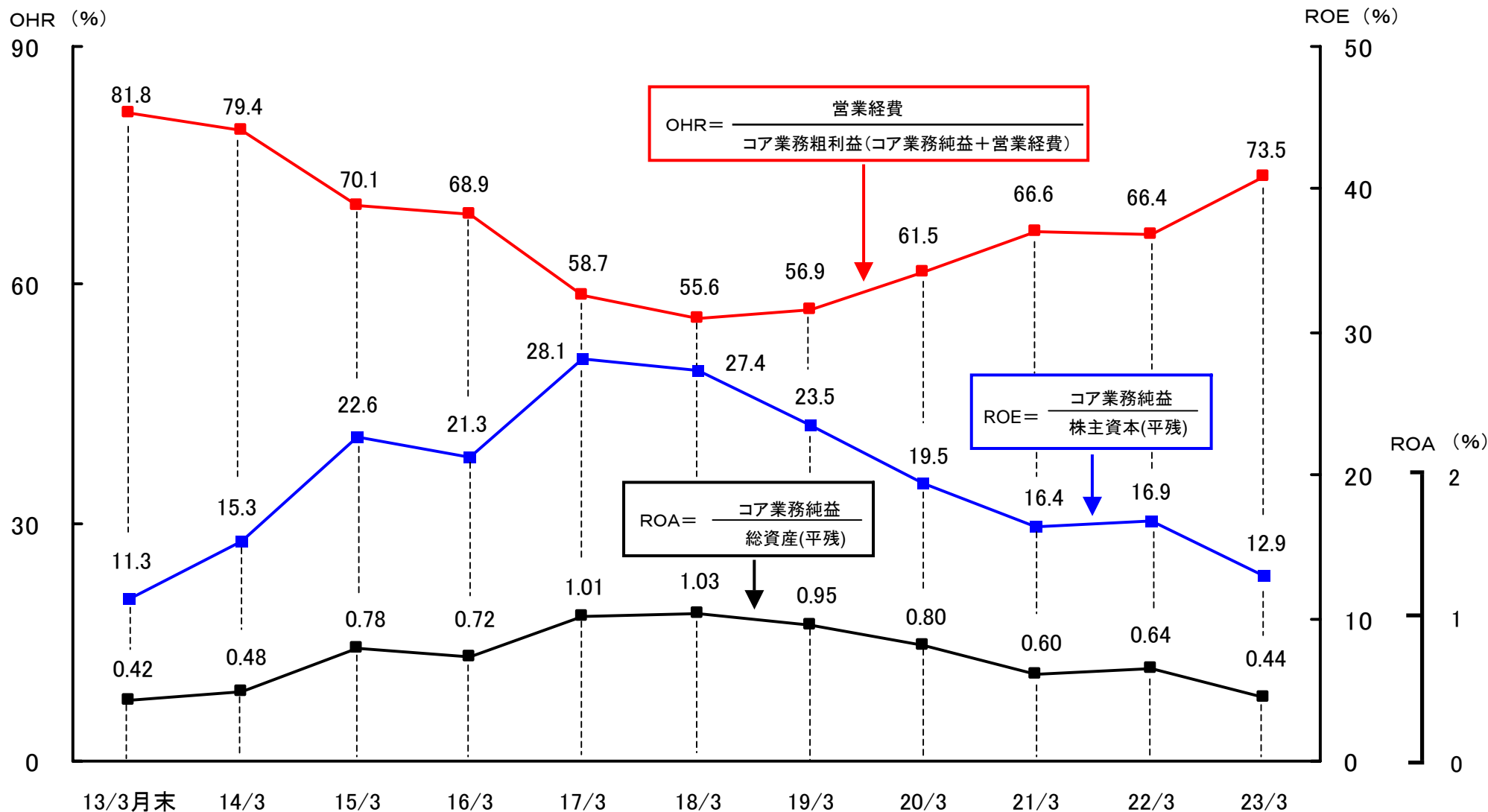
(参考)

自己資本比率の算出上除かれている有価証券の含み損(19億円)を考慮すると、3月末の実質自己資本比率は7.72%(前年9.52%)、連結7.75%(同9.50%)となる計算。

## 6. やや長い目でみた経営動向

### (1) 収益性－悪化

ROA(総資産利益率)、ROE(株主資本利益率)が低下の一方、OHR(営業経費率)は上昇。



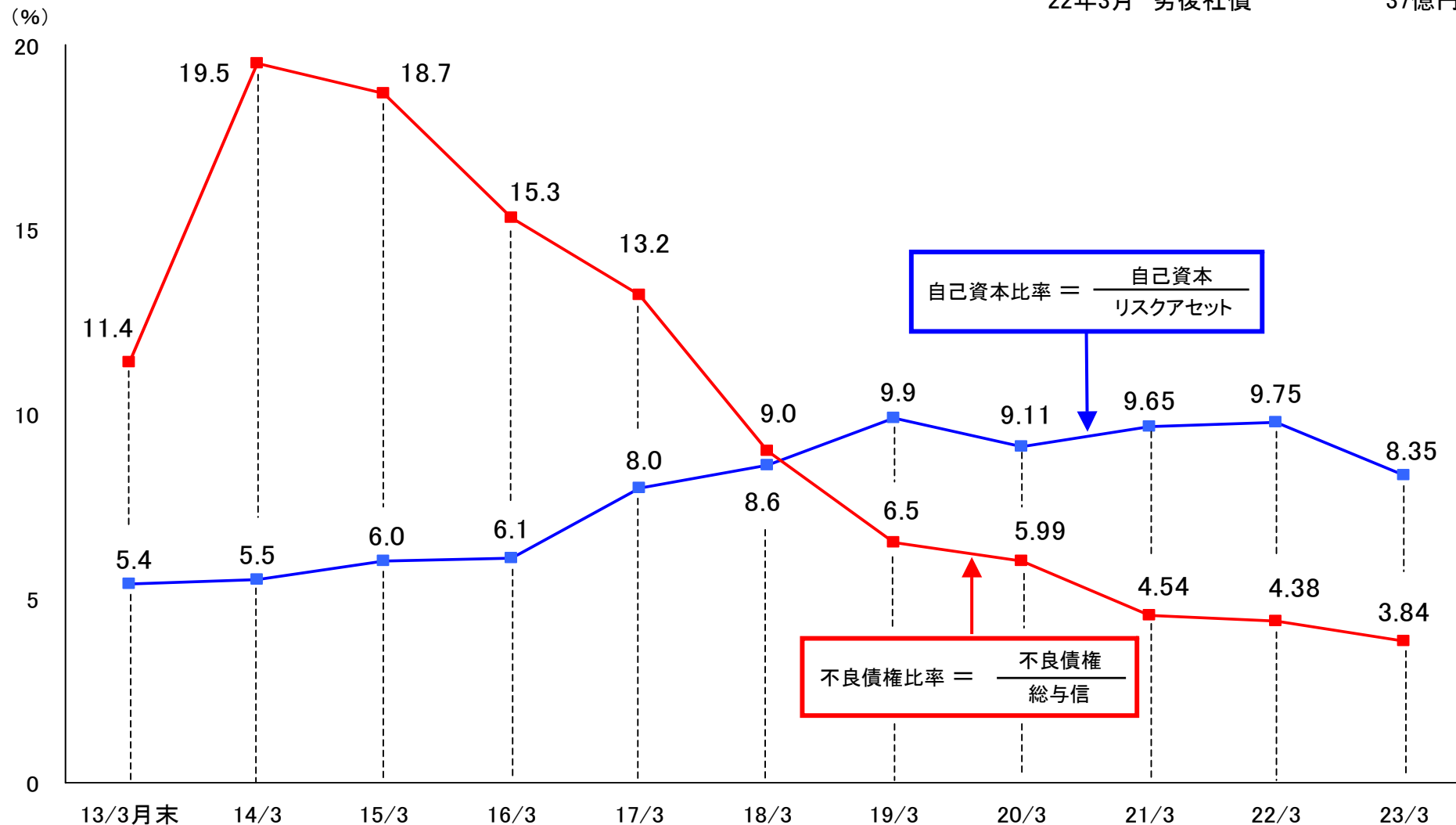
## (2) 健全性－健全性を確保

○不良債権比率は引続き低下。当行としては初めての3%台に。

○自己資本比率はここにきて低下。但し、なお8%台を維持。

### (参考) 資本の外部調達

14年3月	第三者割当増資	146億円
16年9月	新株予約権付社債	20億円
17年3月	劣後社債	45億円
18年9月	新株予約権付社債	45億円
22年3月	劣後社債	37億円



(付) 営業店一覧(23年5月20日現在)

	店舗名	営業店長	電話番号
県北	本店営業部	常務執行役員 遠藤 久志	024-525-2911
	渡利出張所	安田 行雄	024-523-3341
	山下町出張所	佐藤 哲也	024-531-5311
	泉出張所	長嶺 公木	024-559-1231
	福島西支店	渡辺 吉信	024-534-7158
	福島北支店	本名 勝幸	024-553-5561
	福島南支店	葛西 宏一	024-545-3111
	蓬萊出張所	岩本 学	024-548-6331
	笹谷支店	和泉 好宏	024-558-1135
	岡部支店	草野 真之	024-531-8081
	大森支店	佐久間 行英	024-546-5911
	八島田支店	熊坂 久幸	024-558-6001
	飯坂支店	芳賀 良栄	024-542-3251
	保原支店	今村 正弘	024-575-3101
	桑折支店	末永 秀一	024-582-2207
	川俣支店	林 昭夫	024-565-2211
	二本松支店	大井川 恵一	0243-22-2151
県中	本宮支店	佐藤 善範	0243-34-3161
	郡山営業部	常務執行役員 鈴木 弘志	024-932-1500
	さくら通出張所	遠藤 秀典	024-931-5670
	芳賀支店	丹野 眞宏	024-956-0188
	開成支店	鈴木 重晴	024-921-0301
	大槻支店	織内 康司	024-951-8500
	富久山支店	前野 博之	024-934-1620
	菜根支店	山本 利幸	024-923-4500
	安積支店	小野 英典	024-945-5530
	荒井支店	鈴木 岳伯	024-946-1850
	富田支店	佐々木 茂雄	024-952-3922
	須賀川支店	稲村 修	0248-75-2158
須賀川西支店	宮崎 浩行	0248-72-8855	

	店舗名	営業店長	電話番号
県南	矢吹支店	眞壁 孝文	0248-42-3911
	白河支店	吉田 直人	0248-24-1311
	船引支店	熊坂 光幸	0247-82-1151
	石川支店	安齋 健造	0247-26-2127
	棚倉支店	後藤 秀之	0247-33-2211
会津	矢祭支店	大橋 徹	0247-46-3141
	会津支店	佐藤 明則	0242-26-6311
	門田支店	半澤 健一	0242-28-5131
	猪苗代支店	黒須 正雄	0242-62-2054
	喜多方支店	山口 啓二	0241-22-2163
浜通り	相馬支店	上野 芳秀	0244-35-2161
	原町支店	渡辺 敦雄	0244-23-2158
	浪江支店 ※	小貫 博市	—
	富岡支店 ※	新田 廣行	—
	四倉支店	田中 真一	0246-32-4151
	平支店	執行役員 齋藤 郁雄	0246-23-3331
	平東出張所	佐藤 善典	0246-21-5411
	内郷支店	伊藤 伸一	0246-26-2061
	湯本支店	小石沢 好勝	0246-42-2138
	小名浜支店	山崎 英夫	0246-53-4101
県外	植田支店	新田 孝喜	0246-62-2151
	仙台支店	佐藤 健市	022-223-8191
	黒磯支店	長谷川 正人	0287-62-1625
	水戸支店	神谷 義晴	029-224-5606
	大宮支店	星 昌吾	048-643-2830

※臨時窓口(福島市の本店内)の電話番号

浪江支店 024-525-2946 富岡支店 024-525-2947

(1) 営業時間の変更

3月16日以降、節電のため2時間短縮(午後5時まで→午後3時まで)。

(2) 店舗の統廃合

①さくら通出張所を郡山営業部に吸収する予定(23年7月)。

②須賀川支店と須賀川西支店を統合する予定(23年8月)。



本資料は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであることにご留意ください。

～お問い合わせ先～

株式会社福島銀行 経営企画室長 牛澤秀晃  
広報担当 井上大樹

TEL: 024-525-2525 (代)

FAX: 024-536-5338

E-Mail: keiki@fukushimabank.co.jp

URL: <http://www.fukushimabank.co.jp>

以 上